

「教材としての英米文学の行方」（日本英語文化学会、シンポジウム「大学における一般教養科目としての『英語』を考える」、平成 22 年 9 月 4 日）

全体テーマ「大学における一般教養英語としての『英語』を考える」のもと、4つの発表があった。

榊哲「中学・高校から大学への架け橋としての英語教育」

原隆幸「大学生の学力変化に伴い多様化する総合英語教材の役割」

中井延美「文法知識の意識化の重要性」

佐々木隆「教材としての英米文学の行方」

日本の英語教育史を辿りながら、教養英語と実用英語を「教養とは何か」を考えながら、英米文学の利用について実例を交えて紹介し、その可能性について発表した。教育基本法第 1 条により教育が「人格の完成」を目指していることから、文学作品には人間の心を豊かにする効果により、英米文学が英語教育を通して貢献できるとして結論付けた。